

令和 2 年 8 月 20 日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

|             |           |       |
|-------------|-----------|-------|
| 栃木県         |           |       |
| 学 校 名       | 管理機関名     | 設置者の別 |
| 宇都宮市立城山西小学校 | 宇都宮市教育委員会 | 公立    |

1. 特別の教育課程の概要

本校は、本校の実態（小規模特認校）、地域の実情を踏まえて、人間尊重の精神を基本とし、目指す子供像を下記のように掲げ、児童を育成することとしている。

- 情操豊かで、思いやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、児童数の増加につながり、児童教職員ともに伝統ある学校としての誇りをもち、学校生活を送っている。それは、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトにした本校の特色ある教育活動を推進し、教職員の積極的な学校経営への参画のもと、「誰もが安心して学べ、活力あふれる学校」の実現を図るために、「一人一人を大切にした授業」を中心に、5つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通した食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を実現しつつ、「会話科」「食育」「体力の向上」の3点を柱として全教職員で指導に努めてきていることも理由の一つであると考えている。

さらに近年は、3点の柱の一つの「会話科」について、さらに充実した活動や生きた学びにつながることを考え、各教育活動とのつながりや日課にポイントを置き、教育課程を編成している。

本校の「会話科」は、子供たちが様々な人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、日本語によって考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて内容や趣旨を筋道立てて話したり、効果的な表現を工夫して伝えたりする能力及び国際共通語となっている英語を用いて自分の意思などを表現し理解を得る能力を育成することを目標としている。これは、今後、国際化がさらに進展する中を生き抜くために必要不可欠な力であると考えている。さらに、日課を工夫し「英会話タイム」を位置付け、全学年で毎日「英会話」に触れることができるようにすることで、そこで経験する表現やコミュニケーションを生活の一部として取り入れられるようにと考えている。

その上で、「会話科」で身に付けた力を、他教科・領域等で使ったり、「会話科」を他教科等と関連させて学ばせたりしていくことは、本校が目指す目標を達成するために有効であると考え、その点も考慮しながら編成をしている。

## 2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

| 項目      | 評価項目                                                                                                                                                         | 主な具体的な取組                                                                                                                                                                     | 評 価                                                                                                                                                                                                          |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目指す児童の姿 | <p>児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」</p> <p>⇒肯定的回答 80%以上</p>                                | <p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>                                                                 | <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 98.0%</p> <p>教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画を検討しながら、指導を続けていく。</p> <p>・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。</p>                    |
|         | <p>日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 日本語や英語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画について、必要に応じて内容の精選・検討をしていく。</p> <p>② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。</p> <p>③ 「英会話の時間」・「外国語活動」については、教科化による、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 93.9%</p> <p>教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・会話科・外国語活動の年間指導計画を再検討していく。</p> <p>・今後も AET を中心に、英会話タイムの充実を図っていく。</p> <p>・地域学校園での学力向上部会で挙げた課題をもとに、中学進学を見据えた指導を継続して行っていく。</p> |

### ＜学校関係者による評価＞

- ・理想の学校にしたいと、地域の人たちやPTAの皆様の努力、先生方の努力が沢山ある素晴らしい学校だと思う。
- ・英語の授業では、みんなが歌ったり発音したりして、楽しそうに学習していた。
- ・児童が下学年に読み聞かせをする活動は、相手を意識して一生懸命取り組んでいてとてもよかった。
- ・他校と同じように教科書を使うようになると、英語に力を入れている城山西小の特徴が薄まってしまうのではないかと。英語を教えるねらいは、「会話ができるようになること」であると思う。教科書の指導で大丈夫なのか。
- ・子供たちが英語が好きになるように、まず教職員ができるようにならなくてはならないだろう。英語の研究もレベルアップが必要になるのだろう。

### 3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者及び地域住民に対し、保護者会・地域協議会等において特別の教育課程に関する取組について説明し、理解してもらえるようにしている。また、学校だよりやホームページにおいても、取組についての児童の様子を紹介している。

また、土曜授業の際に、本校の特色ある教育活動を実施し、保護者や地域をはじめ多くの方に公開する機会を設定したり、さらに地域とともに行っている「孝子桜まつり」において児童の発表の場を設けたりして、取組や効果の周知を図っている。

### 4. 実施の効果及び課題

市の学習内容定着度調査の結果からは、外国語が好きだと答える児童は多く、市の平均を上回っている。低学年から、英会話に親しんできている成果であると考ええる。

また、話合いに進んで参加していると答えた児童が多く、特に高学年においては9割を超える肯定的な回答であった。理由や根拠をあげながら話せると回答した児童も多く、どの学年も市の平均を上回っていた。このことから、児童は学習や様々な場で進んでコミュニケーションを図り、自分の意見や考えを自信をもって話したり伝えたりできると実感していることが分かる。

また、学習指導要領の改訂に伴い、会話科の年間指導計画もさらに見直していく必要があると思われる。

さらに、学校関係者による評価にあるように、学校独自のカリキュラムにおいて、検定教科書をどのように活用していくのかということや、教職員の英語力の向上のための方策についても検討していく必要がある。

### 5. 課題の改善のための取組の方向性

課題の改善のため、会話科の目標、内容や他教科との関連などを検討し、年間指導計画の見直しに取り組んでいく。また、教職員の英語力については、職員研修を定期的の実施して向上を図っていく。